

## 小林高德教授 教育・研究業績

キリストと世界 28 号抜刷 2018.3.1

## 小林高德教授 教育・研究業績

### 東京基督教大学 教授会

2017 年 10 月 24 日、本学学長、小林高德・大学院神学研究科教授が米国出張途上に召天いたしました。ここにその神学教育と研究の業績を掲載し、小林教授の業績を顕彰いたします。

### 学歴

1976 年 4 月	東京外国語大学インド・パキスタン語学科入学
1980 年 3 月	同 卒業 学士（外国語）
1984 年 4 月	東京基督神学校入学
1987 年 3 月	同校卒業
1987 年 9 月	Calvin Theological Seminary, Th.M. Course in New Testament Studies（カルヴァン神学校大学院修士課程）入学
1989 年 6 月	同課程修了 Th.M. (New Testament Studies)（新約学） 論文タイトル：“The Use of Psalm 68 in Ephesians 4:7-16”
1989 年 10 月	The University of St. Andrews, St. Mary's College, Ph.D. Course（セント・アンドリュース大学セント・メアリーズ・カレッジ神学部博士課程、英国）入学
1999 年 4 月	同課程修了 Ph.D. in New Testament Studies（新約学） 論文タイトル：“The Apocalyptic-Eschatological Drama of Jesus in the Fourth Gospel: An Investigation into the Johannine Christology and Eschatology with Special Reference to John 12:20-36”

### 職歴

1980 年 4 月	東京都立永山高等学校 英語科教諭（1984 年 3 月まで）
1991 年 1 月	University of St. Andrews, St. Mary's College にて新約聖書ギリシア語チューター（1992 年 3 月まで）
1995 年 4 月	東京基督神学校講師（1996 年 3 月まで） 主要担当科目：古典ギリシア語入門、聖書ギリシア語講読、新約各書研究、聖書解釈学、新約聖書釈義、聖書学ゼミ

1996 年 4 月	東京基督教大学講師（2000 年 3 月まで） 主要担当科目：基礎演習、新約聖書緒論、聖書解釈学、コンテクチャリゼーションの神学、新約聖書釈義、女性と社会、平和学
1996 年 4 月	東京基督神学校非常勤教員（2012 年 3 月まで） 主要担当科目：新約釈義、聖書解釈学
1999 年 4 月	東京基督教大学共立研修センター長（2006 年 3 月まで）
2000 年 4 月	同大学助教授（2006 年 3 月まで）
2001 年 4 月	同教務課長（2008 年 3 月まで）
2001 年 6 月 9-24 日	カザフスタン福音神学校集中講義
2002 年 12 月 9-10 日	「Pauline Epistles and Theology」
2006 年 4 月	同大学教授・神学部長（2014 年 3 月まで） 主要担当科目：基礎演習、聖書神学、コンテクチャリゼーションの神学、平和学、新約聖書研究Ⅰ、聖書神学、卒業研究 [アジア神学コース科目] Gospels, Epistles, Theology II (Christology) (Team Teaching), Theology of Contextualization, Graduation Thesis
2012 年 4 月	同大学大学院神学研究科教授（兼任） 主要担当科目：[学部] キリスト教世界観Ⅰ、平和学、新約聖書研究Ⅰ、ギリシア語講読 / 釈義Ⅰ、礼拝学、卒業研究 [アジア神学コース科目] The Pauline Epistles, Graduation Thesis [大学院] 聖書学特殊研究Ⅶ（新約聖書とその世界）、聖書学特殊研究Ⅷ（福音書研究）、聖書学特殊研究Ⅹ（新約聖書神学）、神学総合演習、研究指導
2014 年 4 月	同大学学長

## 所属学会等

1995 年10月	Society of Biblical Literature
1996 年 6 月	日本福音主義神学会
1997 年 9 月	日本新約学会
2003 年 4 月	福音主義神学校協議会議長（2004 年 3 月まで）
2004 年 9 月	アジア神学協議会 日本地区会計（2008 年 9 月まで）
2007 年 6 月	日本宣教学会
2010 年 7 月	アジア神学協議会 日本代表理事
2010 年 7 月	アジア神学協議会 認証審査・教育発展委員会委員
2010 年 9 月	日本基督教学会

## 教会関係

1999 年 12 月	日本長老教会 神学教師任職（按手礼）
2000 年 4 月	日本長老教会 柏シャローム教会協力牧師（2008 年 2 月まで）
2008 年 2 月	日本長老教会 柏シャローム教会牧師（2014 年 3 月まで）

## 研究業績

### [著書]

鍋谷堯爾・藤本満・小林高德・飛鷹美奈子監修『聖書神学事典』いのちのことば社、2010 年

リチャード・ボウカム、マーク・エリオット、小林高德、ほか著『人生を聖書と共に』山口秀生・山口希生訳、新教出版社、2016 年

川田殖、小林高德、挽地茂男、山本敏彦著『不安な時代にキリストに従う喜びー「聖書を読む会」の記録〈1〉』ヨベル、2018 年

### [学術論文]

「キリストと共なる死と復活 ローマ 6：1-14 における救済史的枠組みについて」東京基督神学校修了論文、1986 年

“The Apocalyptic-Eschatological Drama of Jesus in the Fourth Gospel: An Investigation into the Johannine Christology and Eschatology with Special Reference to John 12.20-36.” Ph.D. Thesis, The University of St. Andrews, 1999. (<https://research-repository.st-andrews.ac.uk/handle/10023/9572>)

「Rudolf Bultmann on the Christology of the Fourth Gospel」『基督神学』第6号、東京基督神学校、1992 年、49-66 頁

「第四福音書における『人の子』解釈の最近の動向」『キリストと世界』第8号、東京基督教大学、1998 年、101-108 頁

「新約聖書とギリシア・ローマ古典」『共立研究』V 卷 1 号、共立基督教研究所、1999 年、1-7 頁

「ザアカイのエピソード（ルカ 19:1-10）における福音と社会」『キリストと世界』第 10 号、東京基督教大学、2000 年、1-23 頁

「解釈学の地平と新約聖書からの説教」『基督神学』第 13 号、東京基督神学校、2001 年、1-25 頁

「キリストにあるポリス形成のために—初代教会における公共性に関する試論」『共立研究』Ⅸ巻 1・2 号（合併号）、共立基督教研究所、2004 年、3-5 頁

“The Anguish (ταραχή) of Jesus the Righteous Sufferer (John 12. 27).” In *Kiss the Son: Essays in Honor of Dr. Young Tark Yune in the Memory of His Retirement*, 307-22. Suwon: Woncheon-dong, Yeongtong-gu, 2005.

「ローマ 8 章 26、27 節における祈り—パウロの宇宙論的終末論と苦難の中の友情」『福音主義神学』第 36 号、日本福音主義神学会、2005 年、91-110 頁

「ヨハネ福音書における ΑΝΑΓΝΩΡΙΣΙΣ（認知）と ΘΕΟΞΕΝΙΑ のテーマ」『キリストと世界』第 16 号、東京基督教大学、2006 年、64-80 頁

「ヨハネ 12 章 27 節におけるイエスの苦悶 (ταραχή) —『義人の苦難』の終末的・メシア的解釈を中心に」『EXEGETICA』第 19 号、聖書釈義研究会、2008 年、51-69 頁

「新鮮な水か、いのちの水か？—ヨハネ 4 章 10-14 節における ὕδωρ ζών の表象機能とその解釈」『キリストと世界』21 号、2011 年、60-81 頁

“Amicitia and Imitatio Christi in the Gospel of John: The Friend-Leadership Model of the Johannine Jesus,” *Proceedings of ATA Theological Consultation on Christology*, Asia Theological Association, 2014, 61-68.

#### 【翻訳】

B・デマレスト「一般啓示」（共訳）『神の啓示と日本人の宗教意識—現代における

宣教上の“接触点”を探る（共立モノグラフ No.3）』宇田進編、共立基督教研究所、1989年

アリストター・E・マクグラス『科学と宗教』（共訳）教文館、2003年

アリストター・E・マクグラス『ポスト・モダン世界のキリスト教継—21世紀における福音の役割』（共訳）教文館、2004年

R・V・G・タスカー『ヨハネの福音書』（ティンデル聖書注解）いのちのことば社、2006年

R・アラン・コール『ガラテヤ人への手紙』（ティンデル聖書注解）いのちのことば社、2011年

クリストファー・J・H・ライト『神の宣教』（共訳）東京ミッション研究所、2012年

### 【発表】

“Is the Fourth Gospel Apocalyptic?” Tyndale Fellowship Study Group, Cambridge, June 1, 1992.

“The Concentric Literary Structure of John 12.20-36,” British New Testament Conference, Sheffield University, September 1, 1993.

「第四福音書における認知（ΑΝΑΓΝΩΡΙΣΙΣ）と帰還（ΝΟΣΤΟΣ）のテーマー アリストテレス『詩学』とホメロス『オデュッセイア』を手掛かりとして」日本福音主義神学会東部部会、お茶の水クリスチャンセンター、1996年1月8日

「解釈学の地平と新約聖書からの説教」日本福音主義神学会東部部会、お茶の水クリスチャンセンター、1998年5月1日

「第四福音書の教会論」共立基督教研究所・共立研修センター宗教改革教会論特別

講座・公開シンポジウム、お茶の水クリスチャンセンター、1998年7月6日

“A Renewed Understanding of Justification by Faith and Building-Up the Church,” The Fourth ATA/J&K Joint Conference, Seoul, November 6, 2000.

「ヨハネ福音書における認知と ΘΕΟΞΕΝΙΑ」日本新約学会、立教大学、2004年9月1日

「ナグ・ハマディ文書におけるヨハネ福音書の解釈—新約正典とグノーシス主義」日本福音主義神学会東部部会、お茶の水クリスチャンセンター、2006年11月27日

上記の業績に加え、NTJ 新約聖書注解シリーズ（日本基督教団出版局、2017年10月より刊行中）のフィリピ書簡の執筆、及び John J. Collins, *The Apocalyptic Imagination: An Introduction to Jewish Apocalyptic Literature* の翻訳（山口希生氏との共訳で新教出版社より刊行予定）を進めていました。

また、東京基督教大学・共立基督教研究所・東京基督神学校の刊行物に掲載の論文等は、本学機関リポジトリ (<https://tcu.repo.nii.ac.jp/>) で閲覧いただけます。